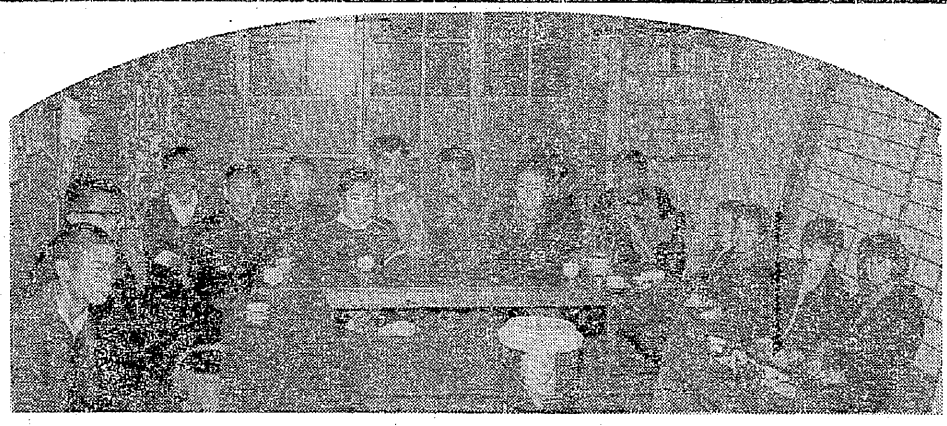
エレキもやるが たくましく伸びる若者たち

馬渡青年・学生会をたずねて

馬渡地域では、一五年前に青年会が結成され、活動をつづけた歴史は長い。当初は組合員も含めた馬渡地域に居住する青年と学生で青年会が発足した。しかし、親子懇談会をもった結果、青年と学生の立場の違いが出され、学生会は分離し、サークル〝あけぼの〟という名称で、三年前から独立して活動をはじめた。



なんでもやって みよう

学生会サークル〝あけぼの〟は現在、高校生ばかりで会員二四名で、以前は月二回集っていましたが、最近定例月一回集って、いろんな行事計画をくんでいる。会費は月三〇円。

「集ったときはいろんな行事をやり、いろんなことを話しあいますが、雑談になってしまいがち。もうすこし積極的になにかやりたい」という会長の大津さん。

しかし、夏には地域分会と一緒に盆おどり大会、秋には運動会と青年会とともに積極的にとり組んでいる。また一〇月に、勝立全地域の若ものたちでエレキ大会が行われ、若ものたちが集り、はじめは恥かしがって踊らなかった者もあとではみんな一緒に踊って若さを発散させた。

「大人はエレキは悪い、とか若い者のやることに批判的ですが、なんでもやってみないことにはわかりません。私たちは集団の中で、責任をもった行動をとって大いに楽しみたい」と、みんな口をそろえていう。

信念を通すことのむずかしさ

青年会は三池労組の分裂後、青年会としては統一してやっていくつもりであったが、やはり会から出る人があって、現在会員一三名。月一回、第一金曜日に集り、行事計画をくんでいる。これまで月一回、スポーツ大会やハイキングをやり、また特別の行事としては一月の成人式や冬の夜警を行っている。

父親たちの斗いについては「よくやっているなと思うが、自分が就職してみると中小企業で、一人だけがやると首を切られるのが心配です。正しいと思ったことを、その通り実行することのむづかしさを知りました。しかしやはり、食わずぎらいではなく、いろんな考え方を知って、正しい道を選びたい」と、中小企業に勤めているという青年が答えてくれた。また「青年会に入って勉強になった。それに、いままで社宅にいても話す人もなかったのに友だちができて、みんなとなんでも話しあえるようになってうれしい」と、ある会員は感想をのべた。

組織として青少年問題をとりあげる

この学生会、青年会に対して、地域分会長の緒方進さんは次のように語った。「青年会、学生会ともに地域での行事に積極的に協力してくれます。また独自の活動をやる場合も、一応私たちにいろいろ相談にきます。私たちもいろんなアドバイスはしますが、行事そのものは自分たちの手で自主的にやってもらいます。行事も青年らしい楽しみ方があるのだから、大人の考えで、あればいけないなどというより、なんでもやってみる中で、かえって集団行動が身につき、不良化問題などの積極的解決策になっているようです。みなさんとてもまじめで、難をいうならまじめすぎておとなしすぎるくらいです。私たちは青少年問題の悩みや問題を組織としてとりあげて解決してゆくべきだと思っています」。

〈時のことば〉

所得は世界で二一位

国民所得白書

三九年度国民所得白書（国民所得報告）が一二月一〇日発表された。それによると国民一人当たりでは二一万一千二百八〇円で昨年に比べて一一・二%にふえている。しかしこれにくらべると日本の国民所得は三八年の米国の国民所得の約四分の一。スイスの三分の一、西独、英、仏の約半分。伊ベネズエラよりも少なく第二一位いかに勤労者が收奪されているかを示している。

わたしとあなた

ひまわり分会　田北妙子

わたしとあなたは一〇年の昔スクラムを組んだ。決して甘い楽しいスクラムでないことだけは、はっきりしているようです。それぞれ今は二人の子どもの父（ちち）母（はは）となっていますが、気持だけは昔とちっとも変らないのです。変ったのは、子どもが大きく成長していることだけ……。

一〇年の歳月に生きる勇気と誇りをわたしにうえつけたあなた……。三一年の長期スト、そして三五年の三池大斗争と、かずかずの斗争に明け暮れた一〇年……。そのうちに、わたしは記念すべき宝をいただいたのです。

忘れもしない三五年一月二五日、会社側のロック・アウト宣言一週前、わたしたちには男の子が生まれ、やがてよちよち歩くころまで斗いはつづきました。その子が成長していくにつれ、そのときのことは、わたしの一生のうち忘れることなく強く頭にやきつくのです。

〝正しいことって、なにかしら？〟ふと考えながら、五年が過ぎ去った現在、私が胸をはっていえることは〝人間らしく生きる喜びと誇り〟なのです。

いくどとなくヤケになり、くずれそうになる自分にムチをうち、愛をさしのべたあなた……。わたしはもう、ぐらつくことはありません。

ふと、想いは子どもたちへと夢がはしるのです。自分よりましな生活ができるようにとねがう親の気持は、誰にもかわりありますまい。

「あなた、子どものしあわせのために、がんばろうね」

「うん、がんばろうや」

と二人はうなづきあいながら昭和四〇年も残りすくない、あわただしい年の瀬に、新春への夢をいっぱいのせて、わたしは大空にむかって呼びかける。

〝しあわせさん、どこにいるの……〟

来年はどんな年かしら。必ず良い年にしよう。

家庭教育が学校の下請けになっていないか

子どもは一人ひとり個性をもっています。兄弟、姉妹でも性質はちがいます。ですから親としてもそれぞれちがったやり方で子どもにせっします。つまり、子どもの育ち方をみて、変えていかねばなりません。学校では一年生は一年生としての待遇を受けています。六年生は六年生としてのことを要求されます。

しかし家庭ではちがいます。一年生という〝わく〟をはずして、「子ども」として、さらには「社会の一員」「家庭の一員」としたメンバーの一人として考えねばなりません。ですから一年生が通用するのは「学校の中」だけだと割り切ることがたいせつだと思います。察外このことが家庭では通用しています。例えば、六年生と中学二年生では、三年の差があります。だから何でも三年分だけ上だ下だという考えが、親の頭の中にありはしないかと思います。

もし、そのような考えがあるとしたら、それは家庭が学校の下請けだということを、知らず知らずに認めていることで、これでは家庭での教育の役割りがぼけてきます。家庭での生活では、たとえ小さなことでも、身につけねばならないことは、一日も早く子どもたちのものにしてあげねばなりません。このことがポイントです。

家庭生活を高めるために（3）

ものの見方、考え方を身につけさせる

家庭での子どもの教育

石川保

家庭でやる大事な仕事は「子どもに思想をもたせること」です。いまの世の中は、むかしを考え、これから先の生き方を見るのではないと思います。将来どんな世の中にならねばならないかを考え、そこからいまの生き方をどうするかと、わり出さねばなりません。親の考えている未来の社会はどんなものか、その時代に子どもはどう生きるのかを考え、親の政治についての考え、社会に対する見方を、子どもへ大事な財産として受けつがせたいものです。

例えば、一九七〇年度には、社会主義国としての政治のしくみを変えるとします。そこには当然、いまの資本主義の社会とはげしい斗いがおこるでしょう。その中において、目的・生き方・行動が、あやまりなく行なわれねばなりません。それにむかって、子どもをどう育てていくか、これが親の大事な仕事といえます。日本が資本主義のままでりっぱになると考えているなら、だまっていてもよいでしょう。

三池の斗いを全国に

〝三池にまなぶ会〟

労仂大学主催の「三池にまなぶ会」は〝長期抵抗路線をみんなのものに〟のよびかけで、第三回目の交流が今年も三池で行なわれる。

全国的にあらゆる職場で合理化攻撃がかけられて、起ち上がった日本中の仲間たちが、三池との交流を深め、真に斗う反合理化体制を強化するため三池を訪れる。私たちもともに学び、共に斗かおう

▼日程

一月二九日
一五時～一八時　開会集会
○三池から何を学ぶか
○三池の現状報告
一九時～二二時　地域分会での交流

一月三〇日
九時～一二時　各支部での分散会（たたかいの交流）
一三時～一七時　わたしたちのたたかい
一九時～二二時　主婦会との話し合い

一月三一日
九時～一二時　総括討論
一三時～一六時　閉会集会

盛上った青婦協パーティー

大地評青婦協今年最後の『若人のつどい』は、一二月二五日午後五時三〇分から大牟田市体育館に六〇〇名の青年・婦人が参加し、一年間のウップンを爆発させた。

松永さん（宮浦支部）の指導で『幸せなら手をたたこう』等、フォークダンスに始まって、本格的なジョーカーズ（筑後市駅）とエレキのウエスタナーズ（大牟田市駅）の演奏で会場はさらに盛り上った。ダンスのあいまに『風船割り』ゲームに寄声をあげ、『ツイスト！ツイスト！』のアピールに最後は読けてツイストを踊り、会場の電灯を全部消して『聖夜』を踊りながら全員合唱して終了したが、『アッというまの三時間』で若人の熱気を会場に残して散会した。

野元労働者の団結餅つき大会

一二月二六日、野元建設労仂組合では、家族ぐるみで、団結餅つき大会を大谷地域斗争本部で実施した。

野元建設組夫の労仂者は、生活が苦しく、弾圧がきびしいほどシッカリ団結し、頑張ろうという意気も旺盛、参加した家族たちは、三池労組の友情カンパに感激するとともに、新しい年こそは、組織拡大飛躍の年にすることを誓いあった。

私の書棚

社会主義への道 ⑫

本所　阿久津正次

ある学習会で、故中島知英さん（元三池労組書記次長）が「炭鉱の低賃金政策」の講演を行なった

一会員より、「大学の先生のようにむづかしい理くつでなく、判りやすく説明してほしい」との要望がだされたときのことを覚えている。

氏は「大学の先生の先生たるゆえんは、どうやさしく説明するかにある」として、判りやすく説明するためには学習の必要性を力説された。

その時の「炭鉱の低賃金政策」はいまでも僕の心を捉えている。

山川先生の「社会主義への道」序文の中で、向坂先生が「山川さんは、むづかしい理論を、やさしく書くことがうまかった。これはいうまでもなく、山川さんが、ものごとを深く理解した上で書かれたからである。そしてさらにその理論が、山川さんの永い経験にうらづけされていたからである」とのべられている。

今日の労仂運動や社会主義運動の中で、むづかしいことが大変多いわけだが、むづかしくなくなることが、むづかしいことをやさしくする、ことになると思っている

初夢でなくなった社会主義を、自分のものにするために年頭再読してみたい。

労大新書「社会主義への道」
山川　均著　定価二二〇円